



水・大地・空気を未来につなぐ

株式会社ミダック  
[証券コード：6564]

2021年3月期  
決算説明資料

<b>①当社グループの紹介</b>	<b>…P2</b>
<b>②決算内容</b>	<b>…P8</b>
<b>③今後の見通し</b>	<b>…P18</b>
<b>④トピックス</b>	<b>…P22</b>
<b>⑤Appendix</b>	<b>…P26</b>

①当社グループの紹介

②決算内容

③今後の見通し

④トピックス

⑤Appendix

# ①-1 当社グループの紹介（会社概要）



社名：株式会社ミダック（MIDAC CO.,LTD.）  
創業：1952年4月（昭和27年）  
資本金：7億5,297万  
代表者：代表取締役社長 加藤 恵子  
本社：静岡県浜松市東区有玉南町2163番地  
従業員：234名<sup>(注)</sup>（2021年3月末：グループ連結）  
子会社：株式会社ミダックはまな（浜松市西区）  
株式会社三晃（愛知県春日井市）

## 《事業内容》

- 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・処分
- 一般廃棄物の収集運搬・処分

## 《保有施設》

### 事業所

- 富士宮事業所（焼却）
- 本社事業所（水処理・収集運搬設備）
- 呉松事業所（破碎）
- 豊橋事業所（混練）
- 関事業所（水処理）

### 営業所

- 東京営業所（神奈川県川崎市）
- 富士宮営業所（静岡県富士宮市）
- 本社・一般営業所（静岡県浜松市）
- 名古屋営業所（愛知県名古屋市）

# ①-2 当社グループの紹介 (拠点一覧)

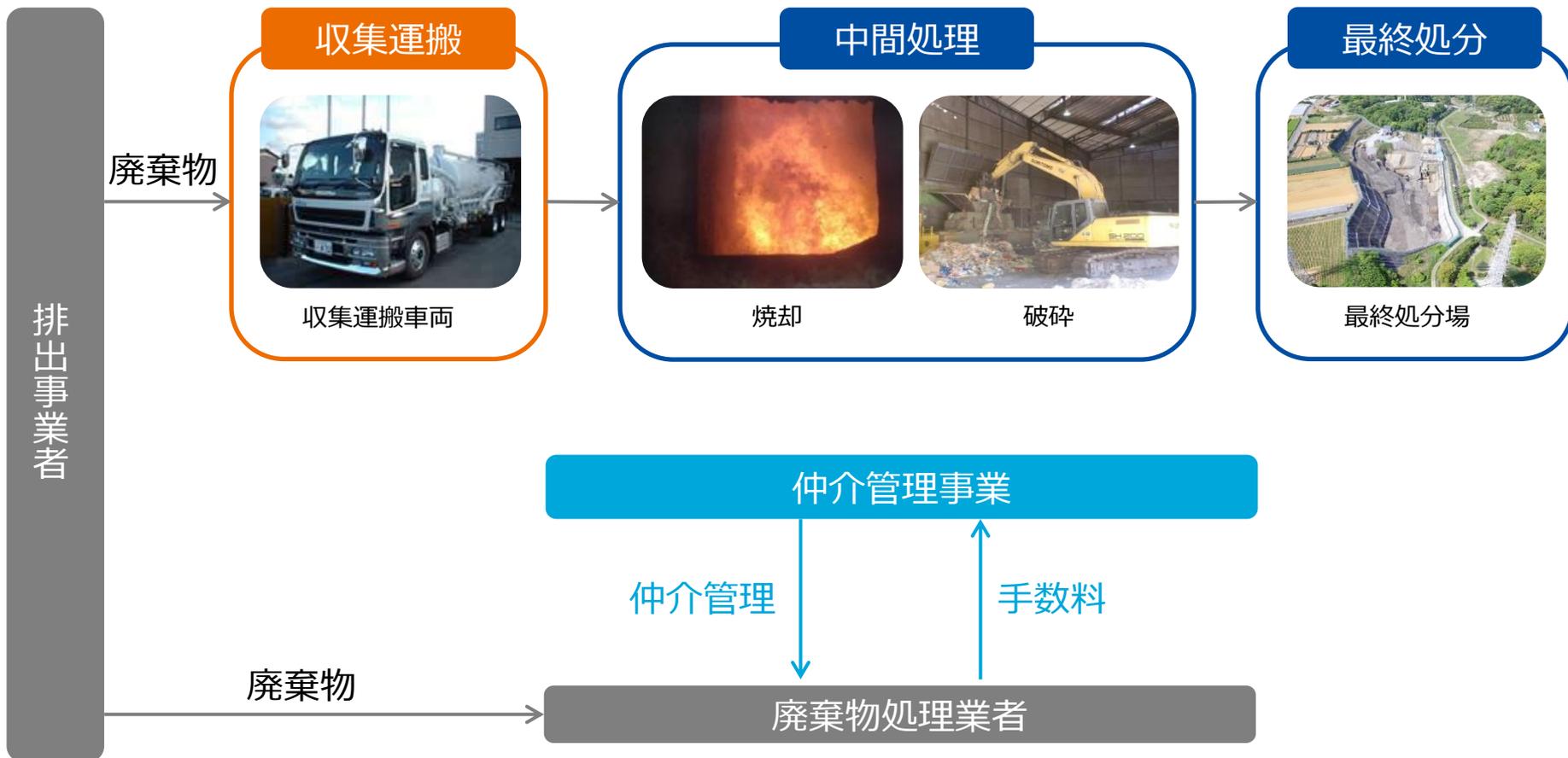


# ①-3 当社グループの紹介（廃棄物処理の工程）

収集運搬事業

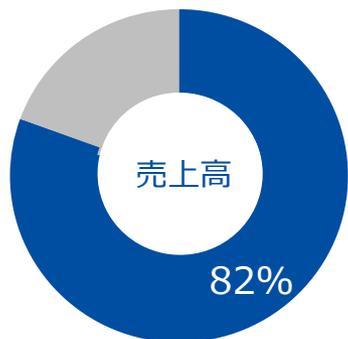
廃棄物処分手業

仲介管理事業



# ①-4 当社グループの紹介（セグメント一覧）

## <廃棄物処分手業>



- 自社施設による廃棄物処理サービスを提供
- 廃棄物処理サービスとは、中間処理と最終処分から構成
- 当グループの中核事業であり、多種多様な廃棄物を処理できる体制を構築

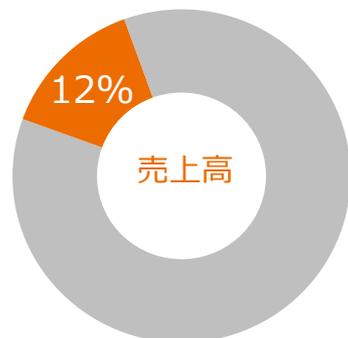


関事業所（水処理）



呉松事業所（破碎）

## <収集運搬事業>



- 廃棄物の収集運搬サービスを提供
- 固形物や廃液まで多様な廃棄物を運搬できるよう、各種車両を完備
- 付随して、清掃業務も受注

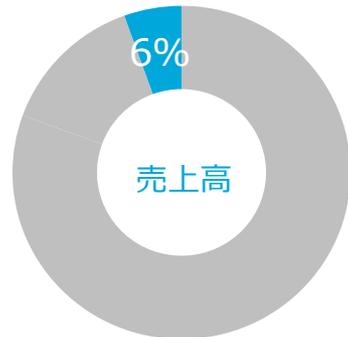


収集運搬車両

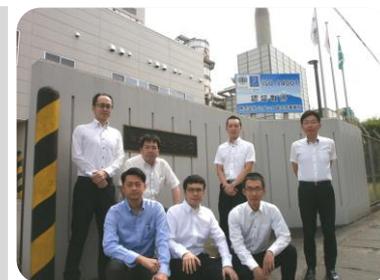


清掃業務

## <仲介管理事業>



- 自社以外の処理業者へ顧客の紹介サービスを提供
- 自社処理が困難な廃棄物や、自社の商圏以外の廃棄物に対して、適正な廃棄物処理を提案



富士宮営業所



東京営業所

注：売上高（2021年3月期実績）には内部売上高を含む

# ①-5 当社グループの紹介（一貫処理体制）

- 同業の多くが収集運搬業のみや中間処理業のみであるのに対し、当社グループは様々な設備を有することで、収集運搬から最終処分までを請け負う一貫とした処理体制を構築



- 排出事業者は廃棄物処理の過程で不適正処理等される心配がなく安心して廃棄物を委託
- グループ内で排出される廃棄物を内製化することで、中間処理施設のコスト削減を実現し、競争力を高める等のシナジー効果を発揮

① 当社グループの紹介

② 決算内容

③ 今後の見通し

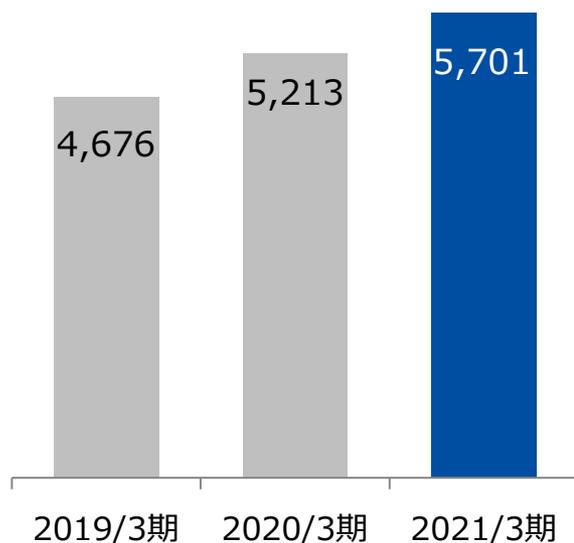
④ トピックス

⑤ Appendix

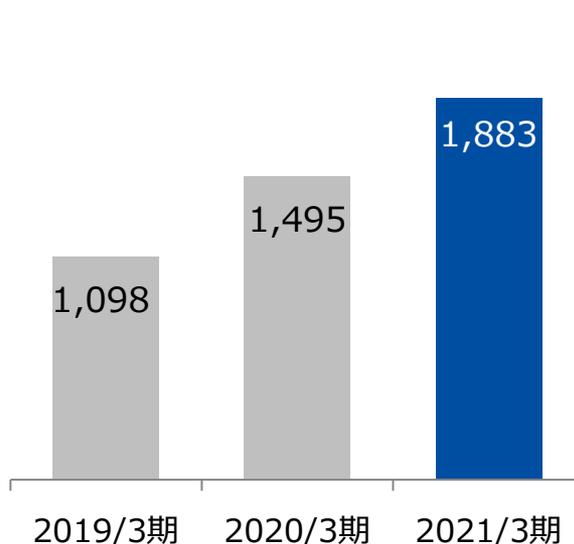
## ②-1 決算内容（連結業績ハイライト）

- 売上高：**5,701百万円**（対前年+9.4%）
- 営業利益：**1,883百万円**（対前年+26.0%）
- 当期純利益<sup>(注)</sup>：**1,018百万円**（対前年+28.0%）

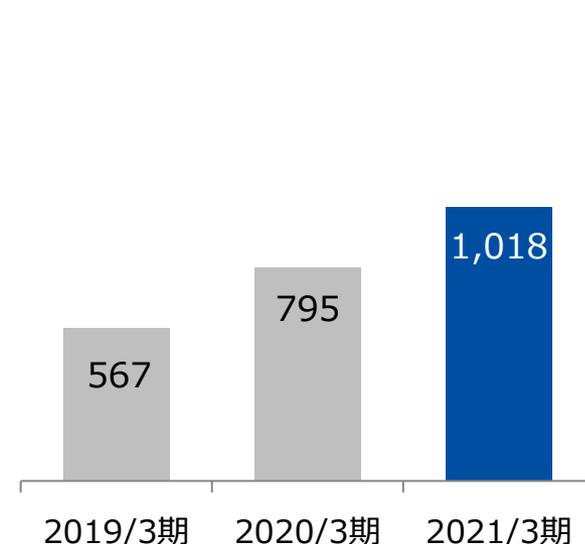
<売上高>



<営業利益>



<当期純利益<sup>(注)</sup>>



注:親会社株主に帰属する当期純利益

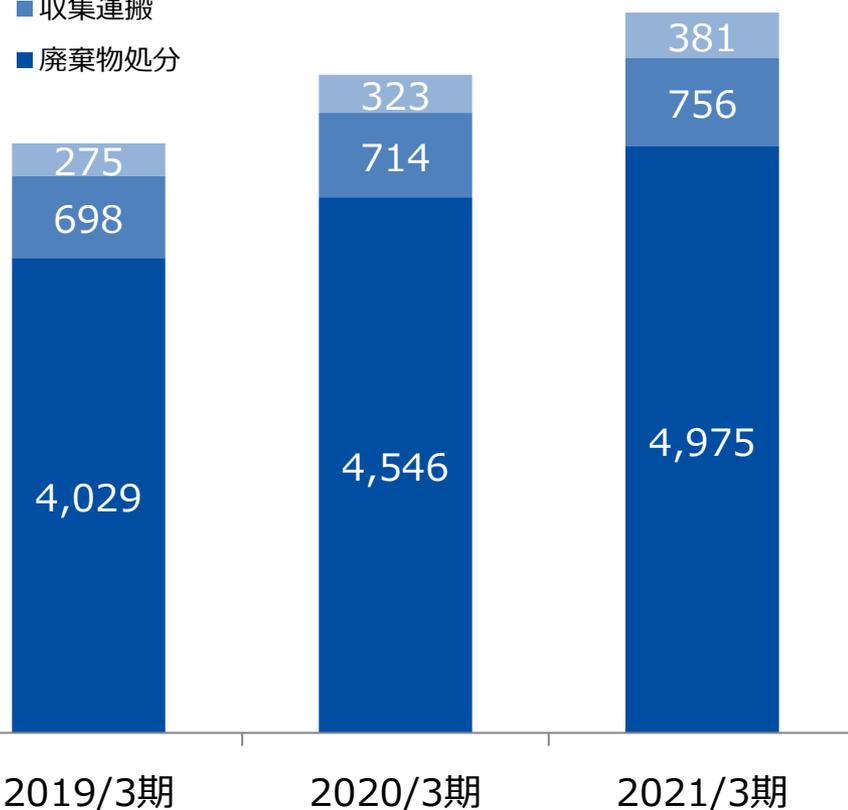
## ②-2 決算内容（セグメント別分析）

■ 廃棄物処分手業、収集運搬事業、仲介管理事業の全てのセグメントにおいて、増収・増益を達成

### セグメント別売上高<sup>(注)</sup>

(単位：百万円)

- 仲介管理
- 収集運搬
- 廃棄物処分

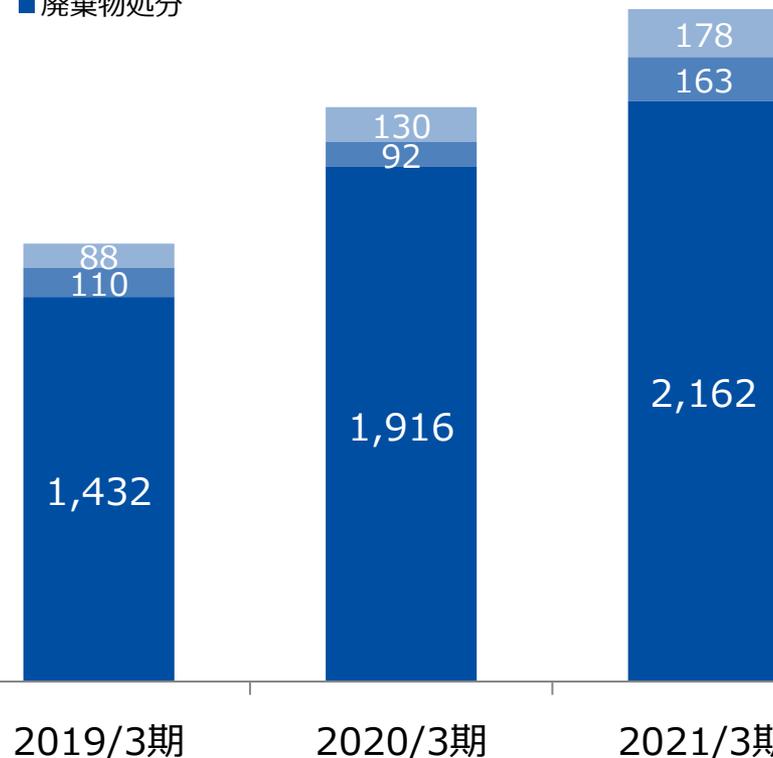


注：内部取引を含む

### セグメント利益<sup>(注)</sup>

(単位：百万円)

- 仲介管理
- 収集運搬
- 廃棄物処分



注：内部取引を含む

## ②-3 決算内容（新型コロナウイルス感染症による影響）

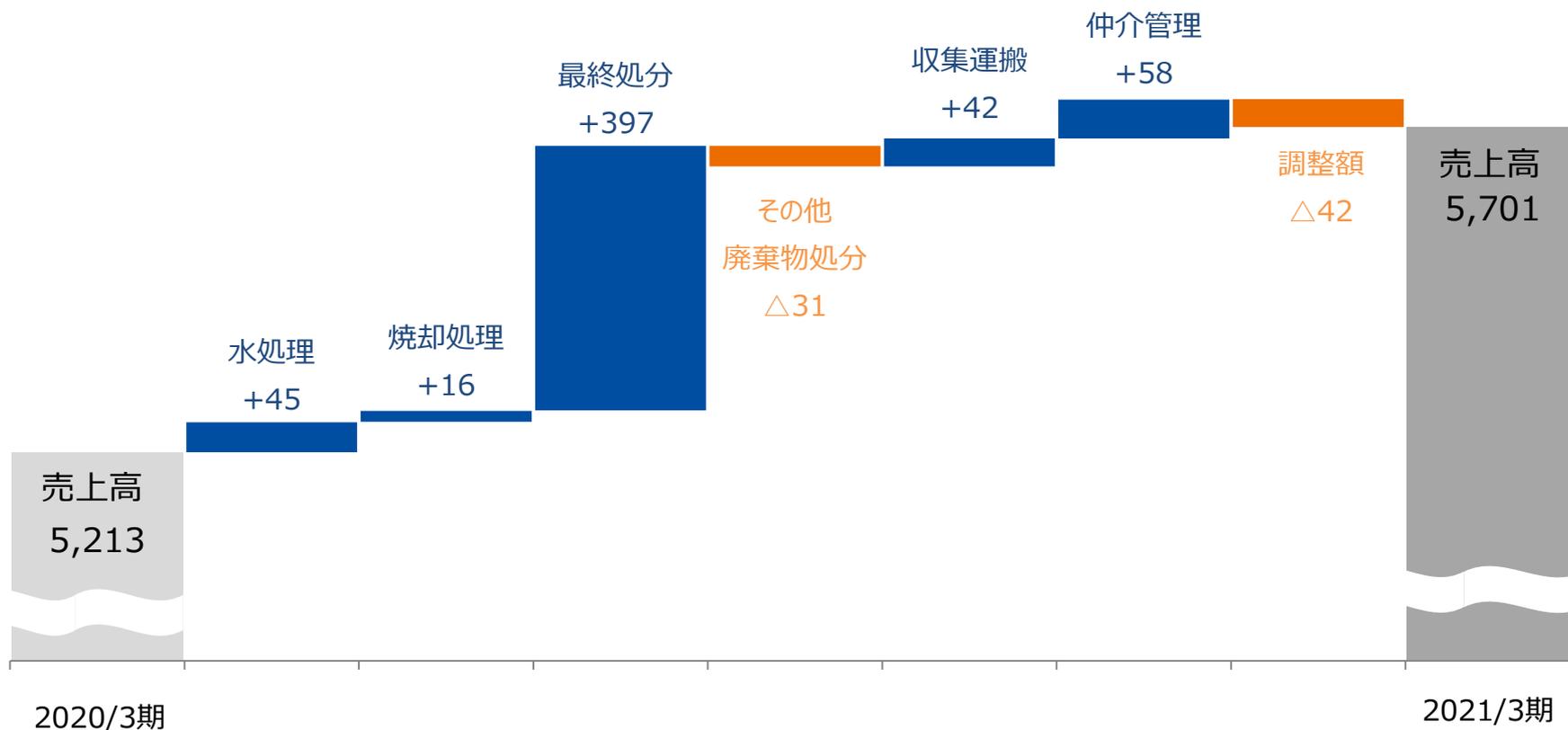
- コロナ禍で需要が低迷する状況においても、自社が保有する多数の処理施設と許可の優位性を発揮することで、廃棄物の受託量の確保に努めた。また、売上は特定の廃棄物や特定の業種に依存せず、総合廃棄物処理企業として確立している。
- 当社の主要地域である中部地域においても、自動車産業の生産は、年央以降、本格的な回復を見せており、廃棄物受託量に関してもコロナ前水準近くまで回復した。
- 最終処分場については、コロナ禍でも旺盛な需要があり、引き続き単価の高い廃棄物の受注に注力しながら、搬入量の拡大に努めた。



## ②-4 決算内容（売上高増減分析）

- 廃棄物処理事業の中で、最終処分が最も増加幅が大きく、次いで水処理、焼却処理となった
- 大型工事案件等により、収集運搬事業、仲介管理事業も好調に推移

(単位：百万円)

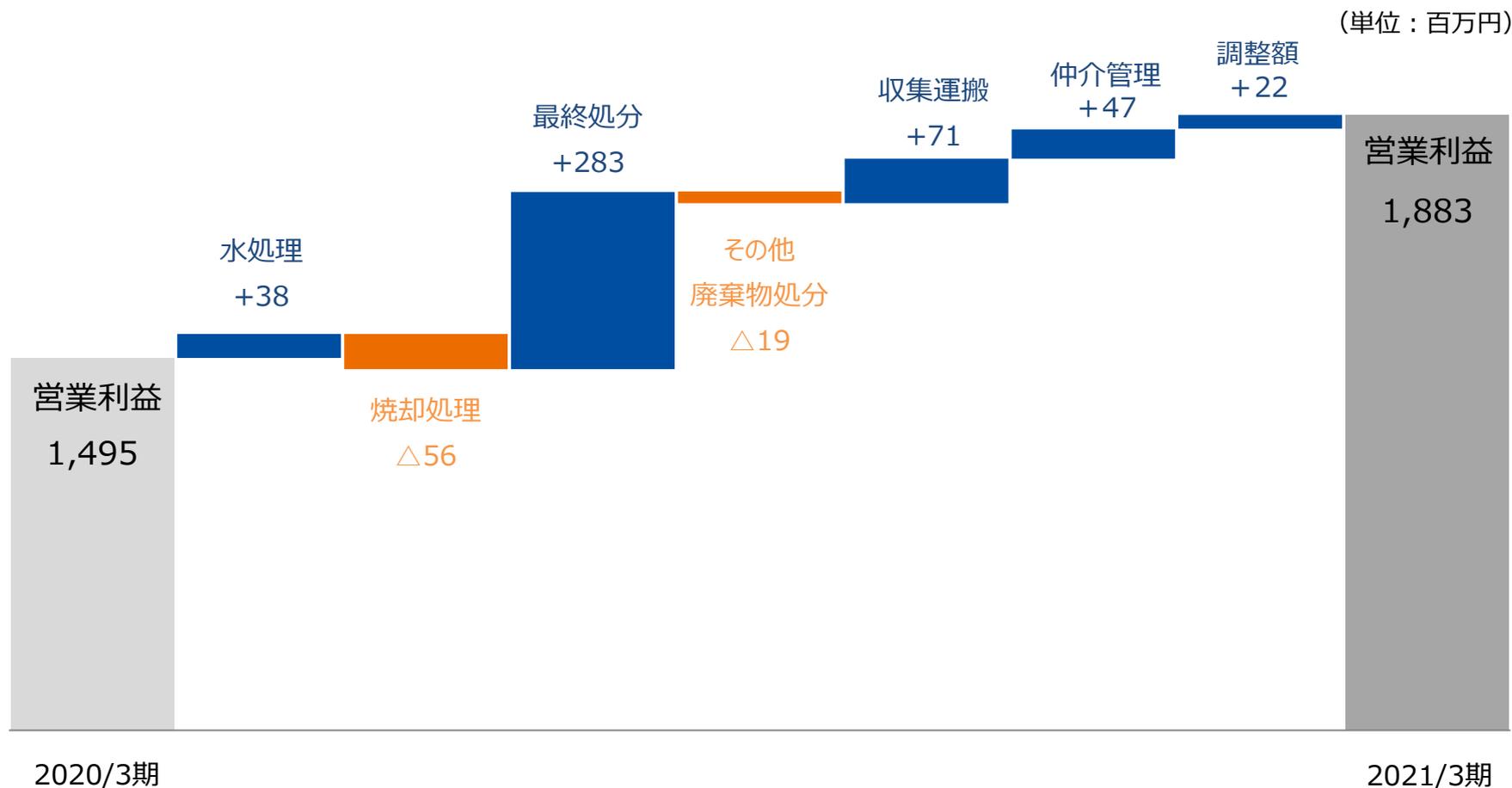


注1: 各カテゴリー別の数値は内部取引を含む

注2: 調整額はセグメント間取引消去の増減

## ②-5 決算内容（営業利益増減分析）

- 最終処分において大きな増益となったが、焼却処理は修繕費の増加等により減益となった
- 収集運搬、仲介管理は大型工事案件等が寄与し、増益となった



注1: 各カテゴリー別の数値は内部取引を含む

注2: 調整額はセグメント間取引消去と全社費用の増減

## ②-6 決算内容（業績予想との比較）

- 最終処分場においては、突発的な案件や緊急性の高い埋立案件が発生したほか、年度末における埋立需要の増加により、搬入制限を一部緩和
- 中間処理施設においては、年度末にスポット案件等を受注したことにより、稼働率が向上

（単位：百万円）

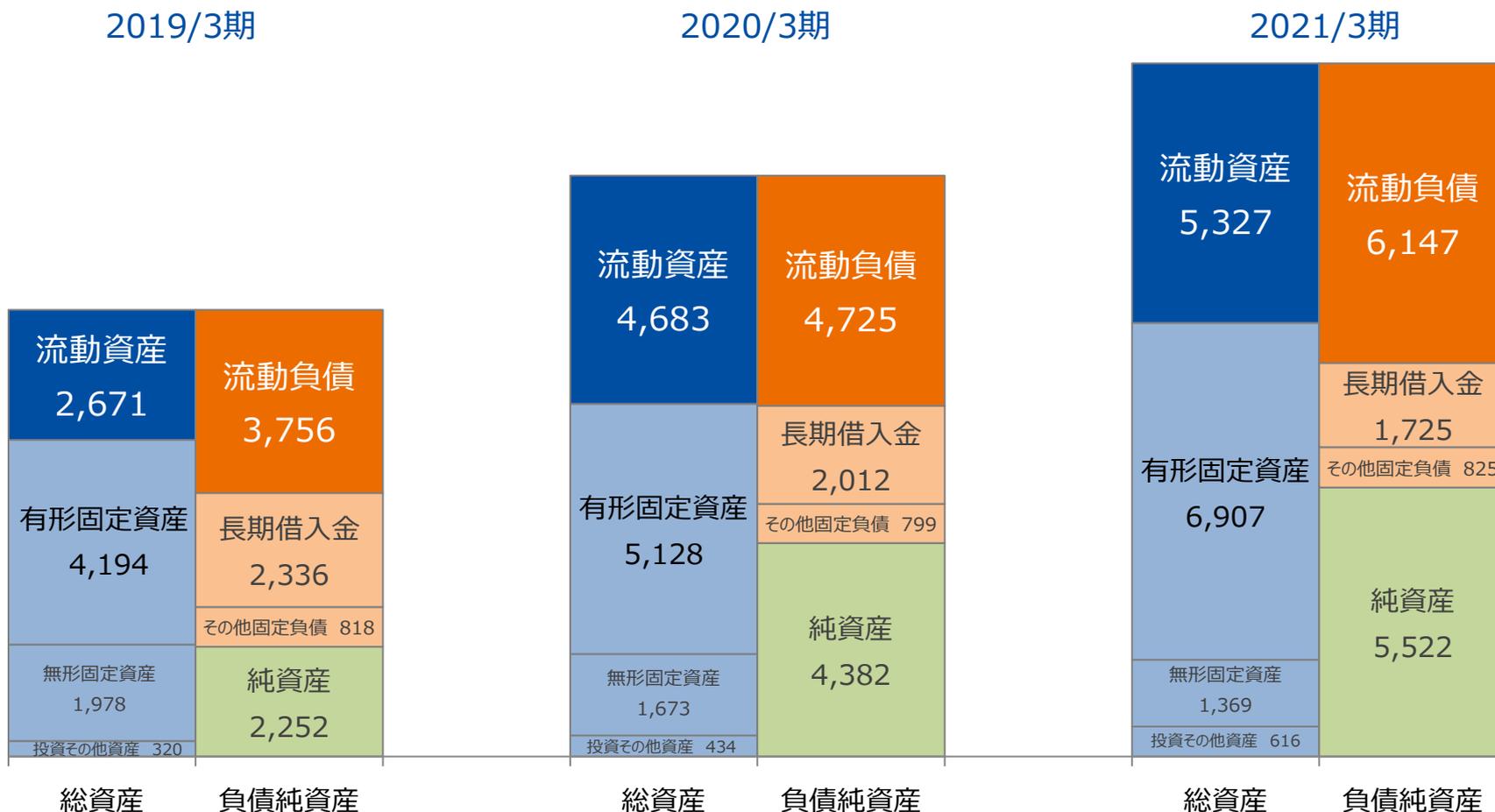
	2021/3期	2021/3期		
	予想	実績	構成比	予想比
売上高	5,509	<b>5,701</b>	<b>100.0%</b>	<b>103.5%</b>
売上原価	2,311	<b>2,372</b>	<b>41.6%</b>	<b>102.7%</b>
売上総利益	3,197	<b>3,328</b>	<b>58.4%</b>	<b>104.1%</b>
販売費・一般管理費	1,447	<b>1,444</b>	<b>25.3%</b>	<b>99.8%</b>
営業利益	1,750	<b>1,883</b>	<b>33.0%</b>	<b>107.6%</b>
営業外収益	32	<b>32</b>	—	—
営業外費用	67	<b>67</b>	—	—
経常利益	1,715	<b>1,848</b>	<b>32.4%</b>	<b>107.8%</b>
特別利益	0	<b>0</b>	—	—
特別損失	0	<b>0</b>	—	—
税引前当期純利益	1,715	<b>1,848</b>	<b>32.4%</b>	<b>107.8%</b>
法人税等	782	<b>829</b>	—	—
当期純利益（注）	932	<b>1,018</b>	<b>17.9%</b>	<b>109.3%</b>

注：親会社株主に帰属する当期純利益

## ②-7 決算内容（貸借対照表）

- 流動資産の増加：好調な営業キャッシュフローによる現預金の増加等を要因としたもの
- 有形固定資産の増加：新規最終処分場建設による建設仮勘定増加等を要因としたもの
- 新規最終処分場建設により短期借入金が増加した一方で、当期純利益<sup>(注)</sup>の計上による利益剰余金の増加により、自己資本比率は前年同期比2.0ポイント改善し38.8%となった

(単位：百万円)

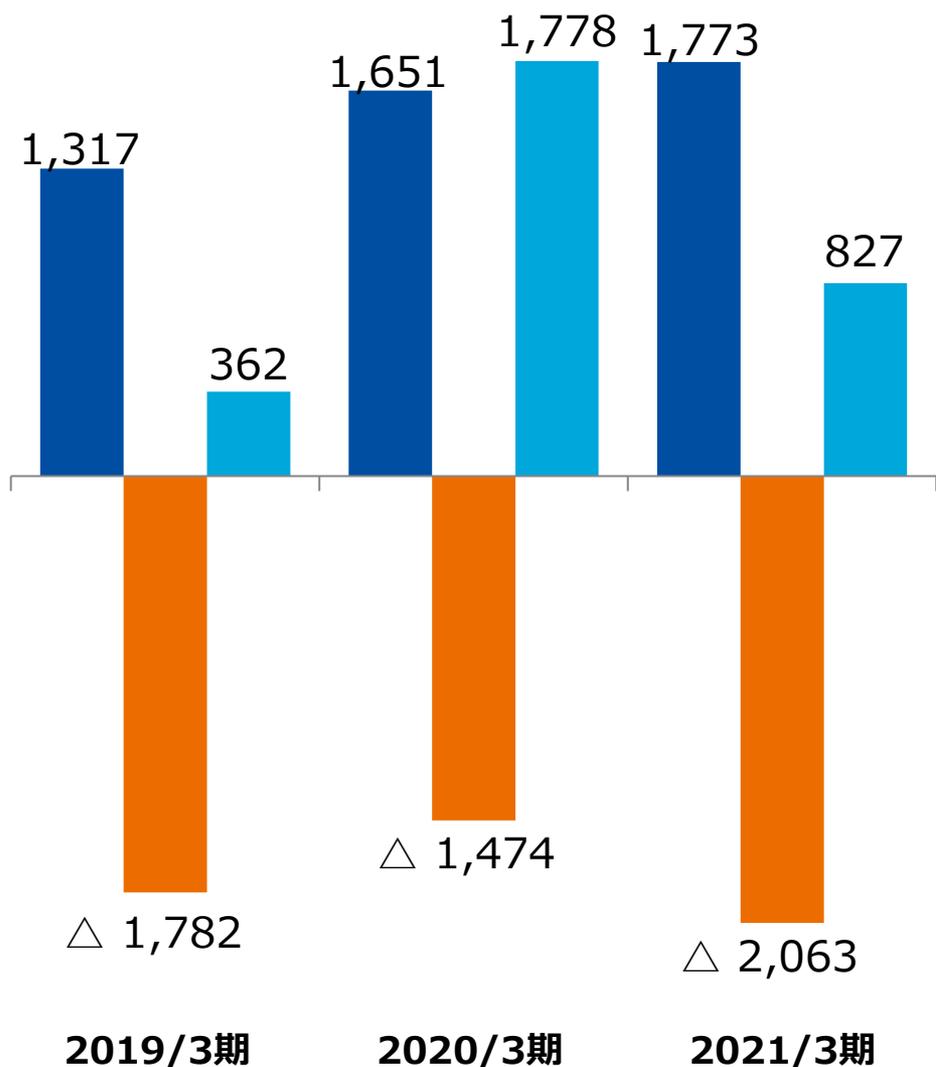


注：親会社株主に帰属する当期純利益

## ②-8 決算内容（キャッシュフロー計算書）

（単位：百万円）

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF



### 営業CF

税金等調整前当期純利益 +1,848百万円  
 減価償却費 +379百万円  
 のれん償却額 +250百万円  
 法人税等の支払額 △742百万円 等

### 投資CF

有形固定資産の取得による支出 △2,070百万円 等

### 財務CF

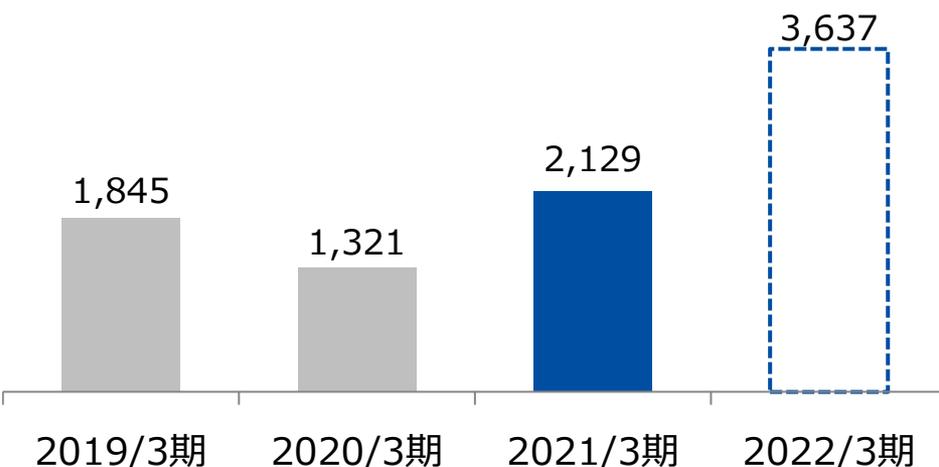
短期借入金の純増額 +1,216百万円  
 長期借入金の返済による支出 △567百万円 等

## ②-9 決算内容 (設備投資)

- 2021/3期の設備投資は、新規最終処分場に係る設備投資額が増加
- 2022/3期も新規最終処分場の開業に向けて設備投資額が増加する見込み

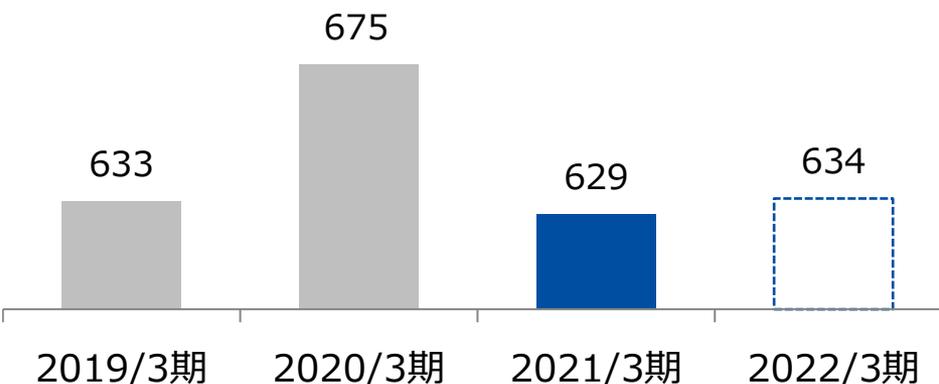
### 設備投資額

(単位：百万円)



### 減価償却費+のれん償却費

(単位：百万円)



### 主な設備投資計画

事業所	投資額 (百万円)	備考
新規最終処分場	1,579	2022年4月以降に稼働を開始予定 (同時に償却も開始予定)
新規焼却施設	1,000	土地代 (2021年12月までに取得予定)

#### 新規最終処分場



#### 新規焼却施設



※写真はイメージです

① 当社グループの紹介

② 決算内容

③ 今後の見通し

④ トピックス

⑤ Appendix

### ③-1 今後の見通し（通期業績予想）

- 最終処分場においては、旺盛な需要を背景に、施設の収益性を最大限高めるべく、引き続き単価の高い廃棄物の受注に注力するとともに、受託量の拡大を図る
  - 中間処理施設においては、販路拡大に向けた営業活動を推進し稼働率の向上を図る
- （単位：百万円）

	2021/3期	2022/3期		前期比
	実績	予想	構成比	
売上高	5,701	6,003	100.0%	5.3%
売上原価	2,372	2,291	38.2%	-3.4%
売上総利益	3,328	3,711	61.8%	11.5%
販売費・一般管理費	1,444	1,570	26.2%	8.7%
営業利益	1,883	2,140	35.7%	13.6%
営業外収益	32	14	—	—
営業外費用	67	72	—	—
経常利益	1,848	2,082	34.7%	12.7%
特別利益	0	0	—	—
特別損失	0	0	—	—
税引前当期純利益	1,848	2,082	34.7%	12.7%
法人税等	829	896	—	—
当期純利益（注）	1,018	1,186	19.8%	16.4%

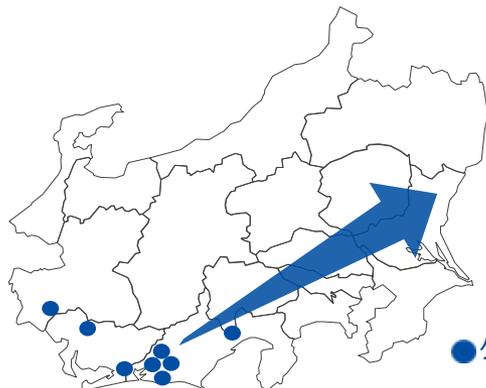
注：親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益

## ③-2 今後の見通し（中長期的な成長戦略）

- 関東方面への進出の第一歩として自社開発による焼却施設の設置を計画
- 現在、土地取得に向けた協議を進めており、調達資金を充当予定

### 自社開発のノウハウ

- ・地域住民・自治体との調整→許可取得→建設まで  
プロセスにおいてノウハウを蓄積
- ・専門部署である開発事業部を設置



※写真はイメージです

### 新規焼却施設

手取概算額合計上限	1,252百万円
土地取得見込額	1,000百万円
充当期	2021年12月まで

※取得予定不動産は現時点において決定しておりませんので、土地取得額は見込額となっております

※土地取得金額が確定した後、残額が生じた場合は当該残額を2021年12月までに運転資金に充当し、不足が生じた場合は自己資金を充当する予定であります

### M&Aのノウハウ



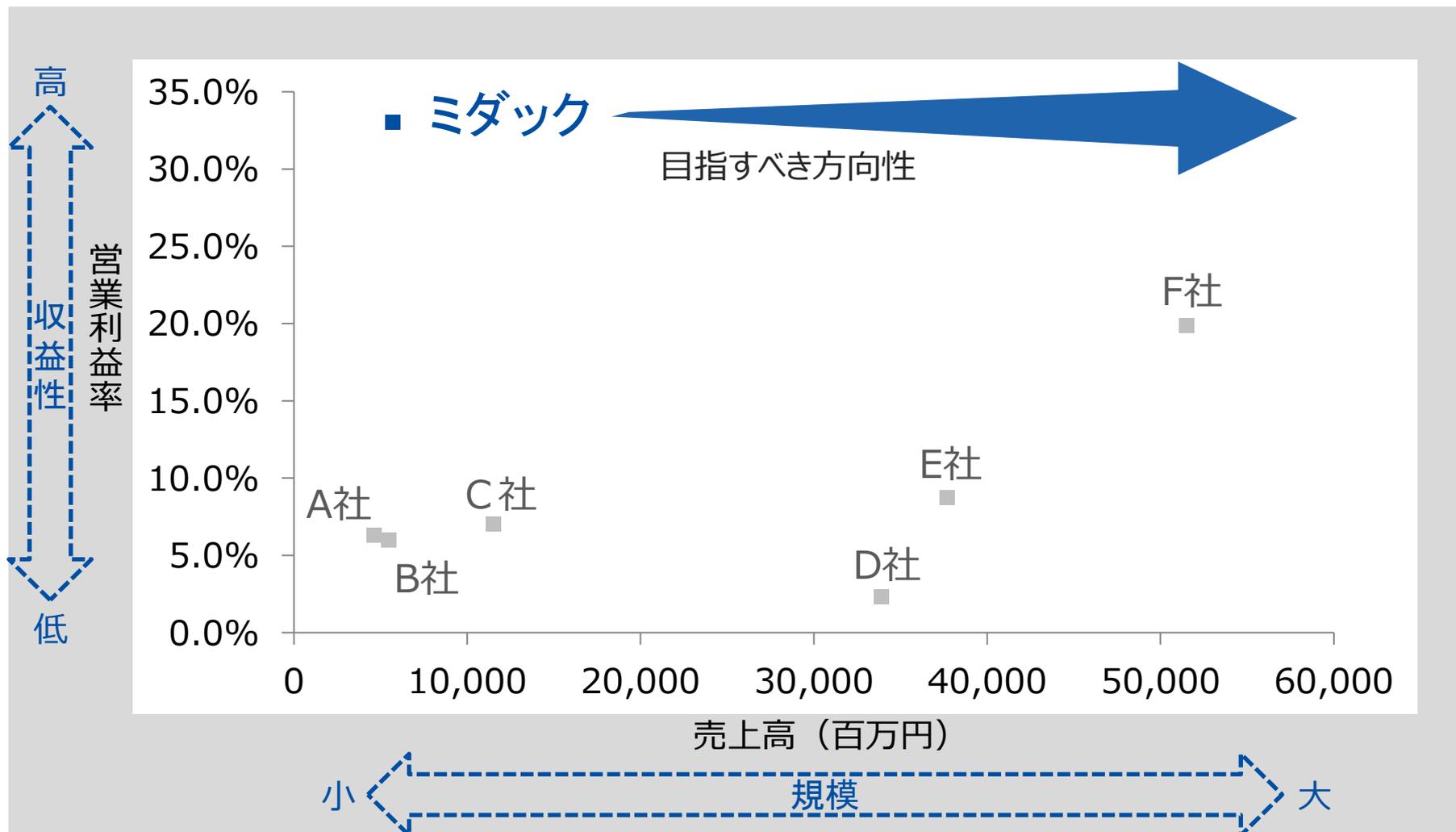
子会社化

三晃

ミダックはまな

### ③-3 今後の見通し（同業他社比と目指す方向性）

- 売上高は5,701百万円で規模の面では同業他社に劣るものの、営業利益率は33.0%と高い収益性を維持
- 今後は関東方面への進出を図り、規模の拡大を目指していく



① 当社グループの紹介

② 決算内容

③ 今後の見通し

④ **トピックス**

⑤ Appendix

# ④-1 トピックス（新規管理型最終処分場）

- 静岡県浜松市北区に新規管理型最終処分場の設置を計画
- 2022年4月以降の開業に向け、工事は着々と進行中

## 施設概要

施設名称	奥山の杜クリーンセンター
埋立容量	約3,125,000m <sup>3</sup>
稼働開始予定	2022年4月以降
埋立予定期間	約30年
投資予定総額	約87億円



## 既存処分場との規模の比較

既存の管理型最終処分場に比べ、約7～8倍の規模を確保

新規管理型  
最終処分場  
3,125,000m<sup>3</sup>  
(東京ドーム約2.5杯分)

遠州  
クリーンセンター  
410,575m<sup>3</sup>

- ミダックグループ全社でのSDGs推進体制を整備
- ミダック・サステイナブル・ライフポイント(MSLP)制度とボランティア休暇制度を導入



未来へ続く廃棄物処理のために  
～ MIDAC SUSTAINABLE LIFE POINT 制度を開始～

### MSLP制度

環境・社会に貢献する活動として会社で定めたものを生活の中で実施し、報告するとポイントを付与。付与されたポイントを1年ごとに集計し、還元金を支給

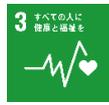
例えば、

- ・認定NPO法人等への寄付 
- ・(食品ロス軽減)値引商品の購入 
- ・地域清掃活動・ボランティア活動への参加 

### ボランティア休暇制度

就業時間内に一定の条件を満たすボランティア活動を実施する者に特別休暇を付与

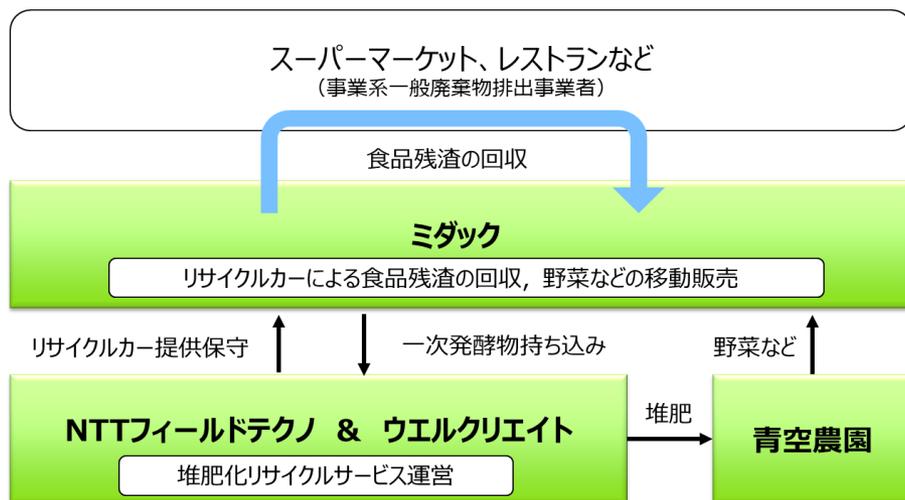
例えば、

- ・災害復興ボランティア 
- ・社会福祉施設における慰問等 
- ・青少年の指導、育成のための活動 

# ④-3 トピックス（移動式循環リサイクルカー）

- 動静脈一体型運搬システム・リサイクルループ実証実験を開始
- 移動式循環リサイクルカーで小口食品残渣の堆肥化リサイクルを促進

## 動静脈一体型の運搬システム・リサイクルループ



① 当社グループの紹介

② 決算内容

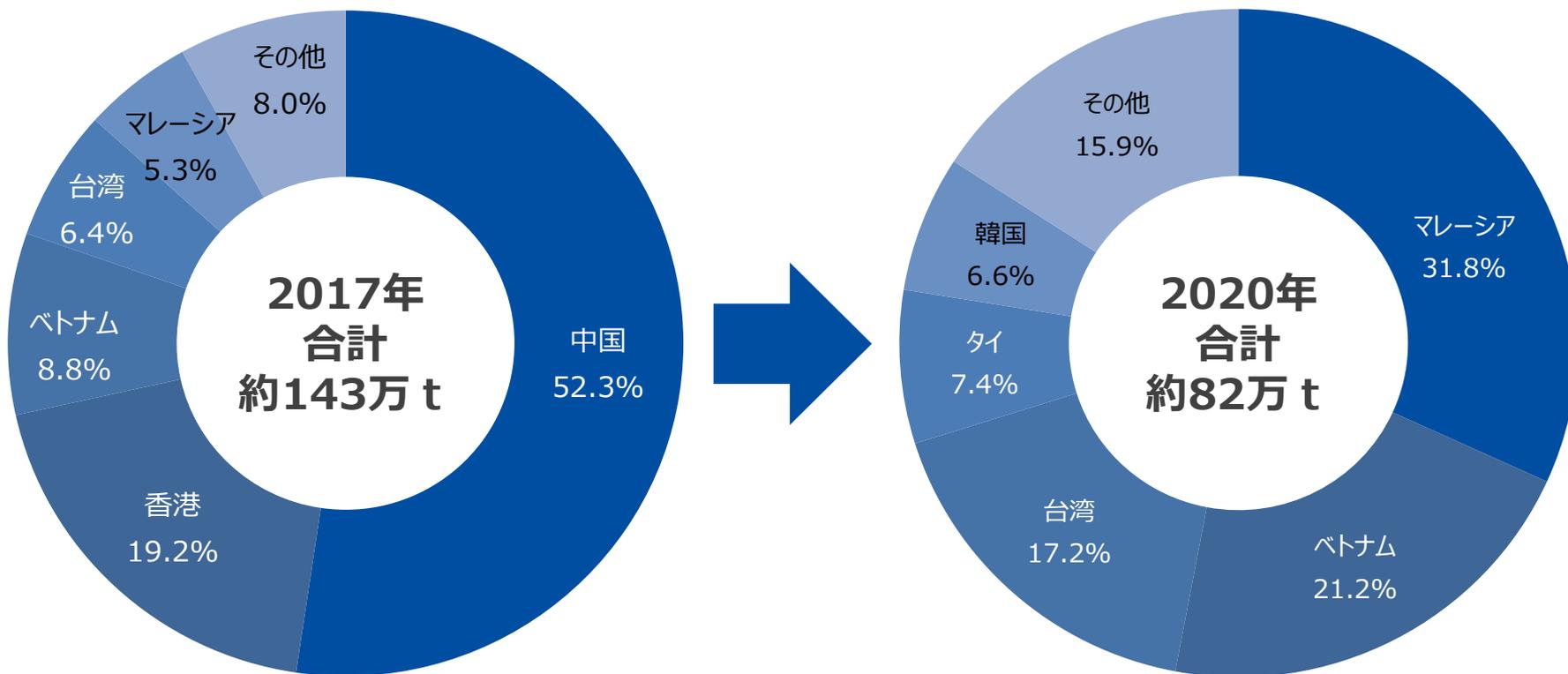
③ 今後の見通し

④ トピックス

⑤ **Appendix**

- 2017年末の中国の廃プラスチック輸入禁止措置により、国内における廃プラスチック類の処理がひっ迫
- 2021年1月発効の改正バーゼルにより、廃プラスチック類の輸出に対し規制が強化された
- 使用済みプラスチック等の国内での適正な処理やリサイクルがこれまで以上に求められる

－ 日本の廃プラスチック類の年間輸出货量と輸出先内訳 －



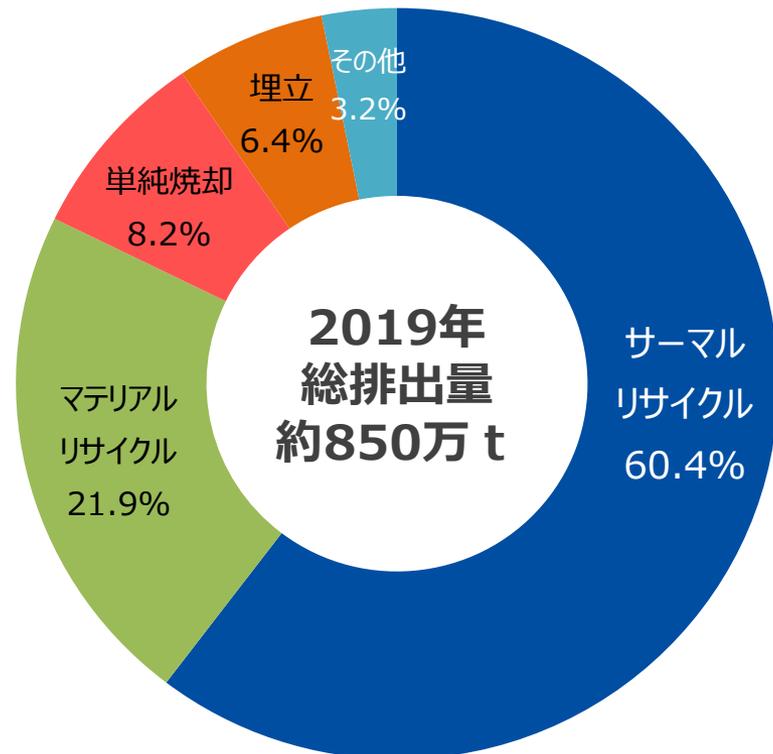
出展：財務省貿易統計

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会「プラスチックのくず（廃プラスチック） および古紙の輸出統計」

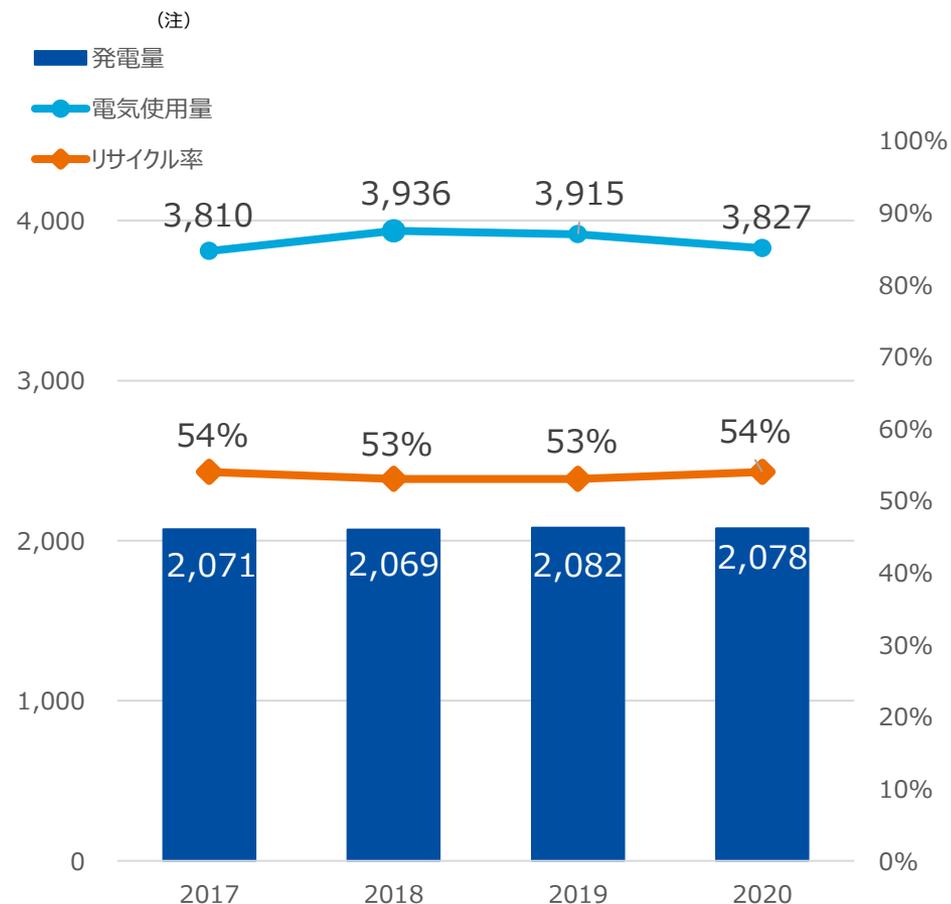
## ⑤-2 業界環境（プラスチック資源循環について）

- 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案」が2021年3月9日閣議決定
- 国内におけるプラスチックの資源循環の重要性が高まっている
- 2020年度焼却施設でのサーマルリサイクル率は54%

国内廃プラスチック有効利用率



自社焼却施設サーマルリサイクル推移

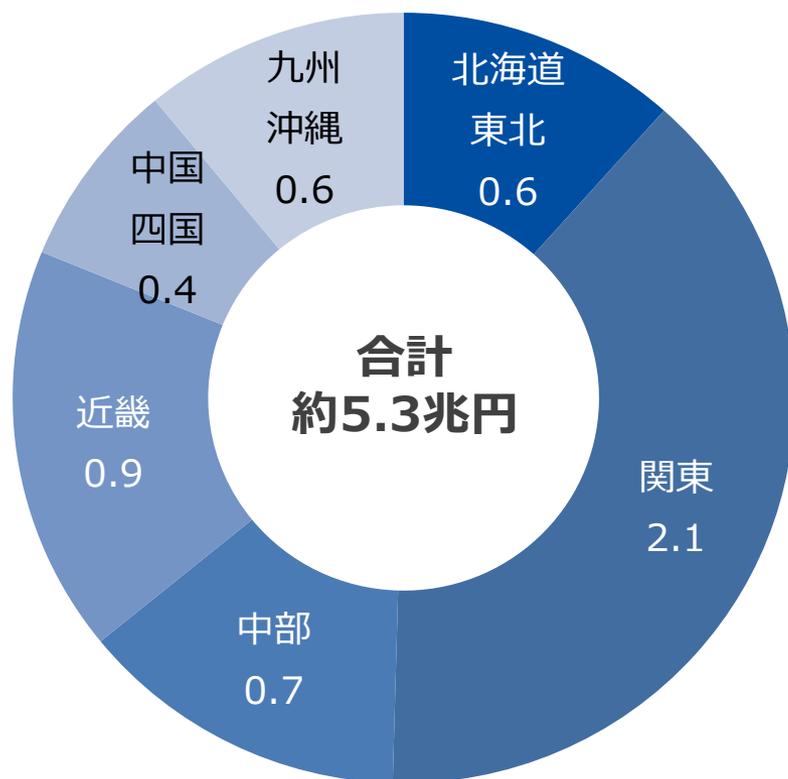


出典：一般社団法人プラスチック循環利用協会「2019年プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」

注：発電量、電気使用量の単位はMWh

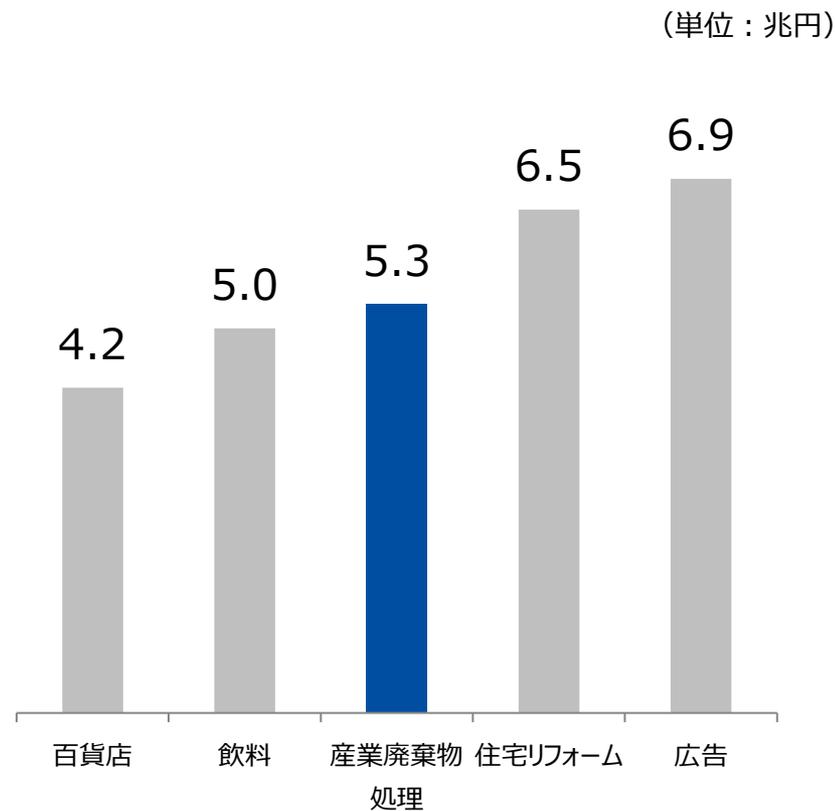
- 国内における産業廃棄物処理業界の推定市場規模は、約5.3兆円
- 「飲料」業界と同程度の市場規模

産業廃棄物処理業界の推定市場規模



出典:環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」

他業界との市場規模の比較



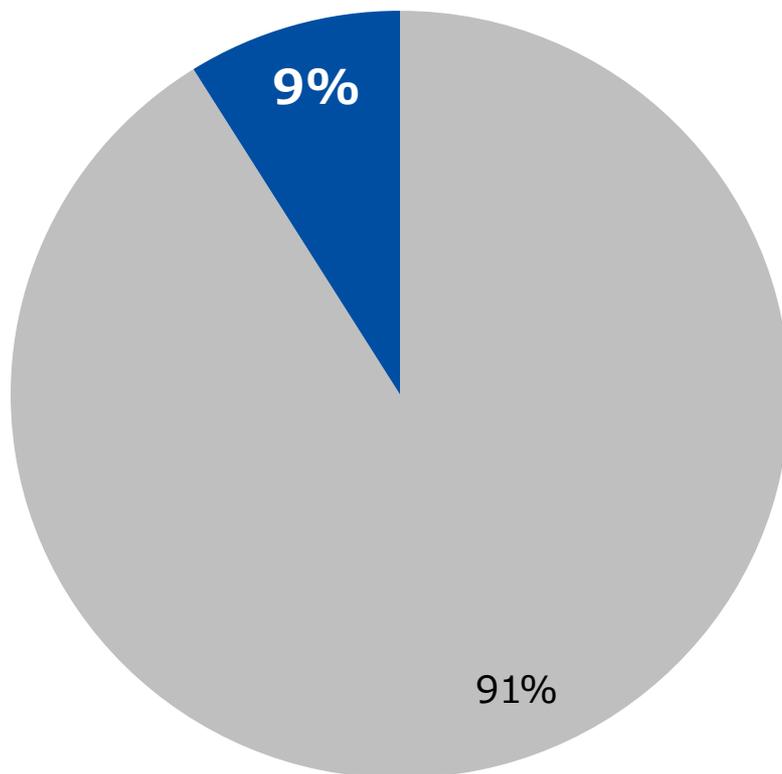
出典:日本百貨店協会「令和2年12月全国百貨店売上高概況」(百貨店)、(株)矢野経済研究所「2020年版 飲料市場の現状と展望」(飲料)、環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」(廃棄物処理)、(株)矢野経済研究所「住宅リフォーム市場に関する調査(2020年)」(人材派遣)、(株)電通「2019年 日本の広告費」(広告)

## ⑤-4 業界環境（事業者数の割合）

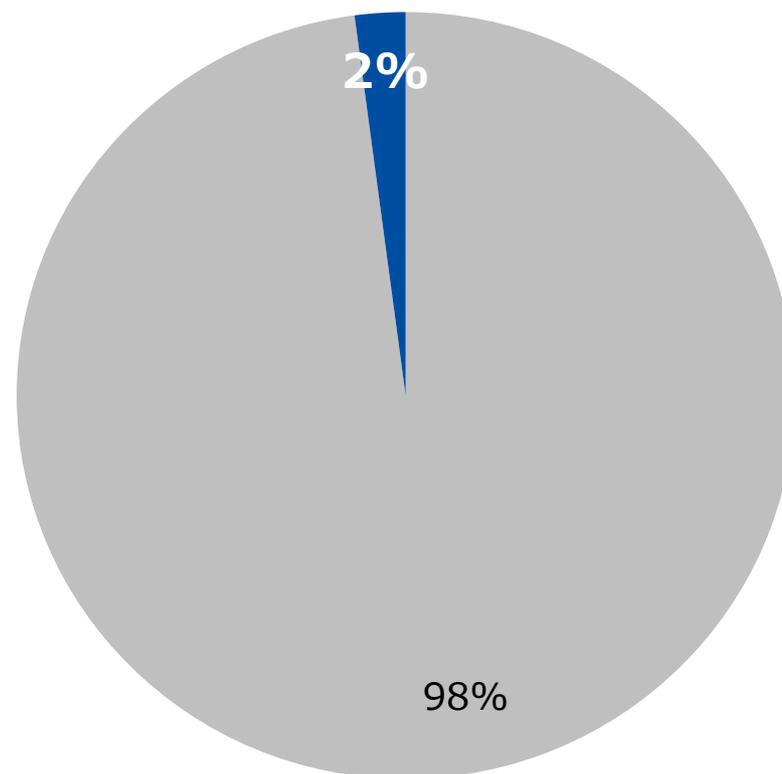
- 廃棄物処理業界において、主業者のうち、売上高10億円以上の事業者の割合は僅か約9%
- 従業員数が100人以上の事業者の割合も約2%であり、中小零細業者が多数を占める業界

注：産業廃棄物処理業の許可を保有している事業者のうち、産業廃棄物処理業を主業（売上高の割合が50%以上）とする事業者

— 売上高10億円以上の主業者が占める割合 —      — 従業員100人以上の主業者が占める割合 —



出展：環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」、産業廃棄物処理業の振興方策に関する検討会「産業廃棄物処理業の振興方策に関する提言」



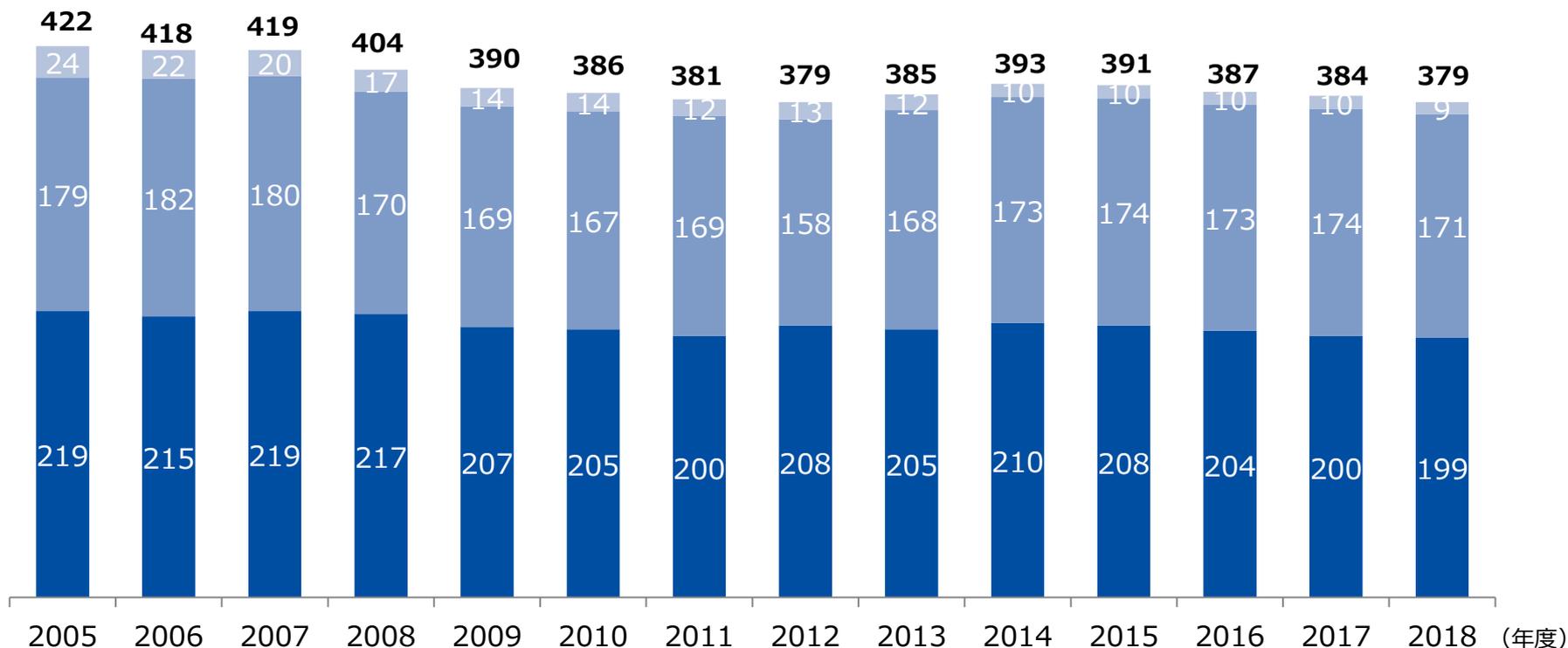
出展：環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」、産業廃棄物処理業の振興方策に関する検討会「産業廃棄物処理業の振興方策に関する提言」

## ⑤-5 業界環境（産業廃棄物の総排出量）

- 産業廃棄物の総排出量は2018年度で379百万トンであり、大きな変化は見られない
- 今後においても、一定の廃棄物の排出が継続するものと予測

■ 最終処分量  
■ 減量化量  
■ 再生利用量

(単位：百万t)

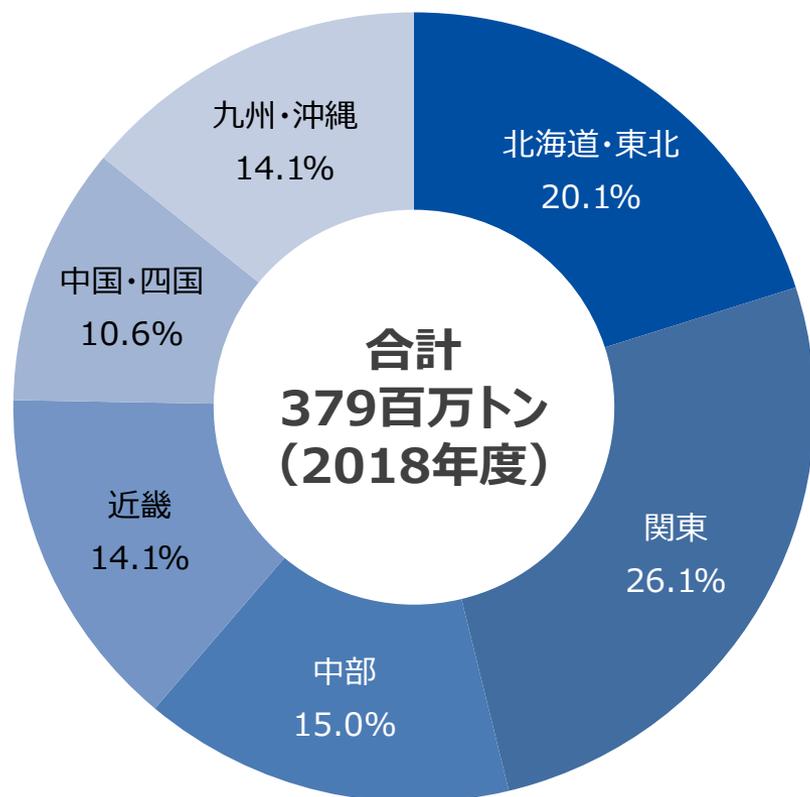


出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成30年度実績）」

## ⑤-6 業界環境（地域別、業種別排出割合）

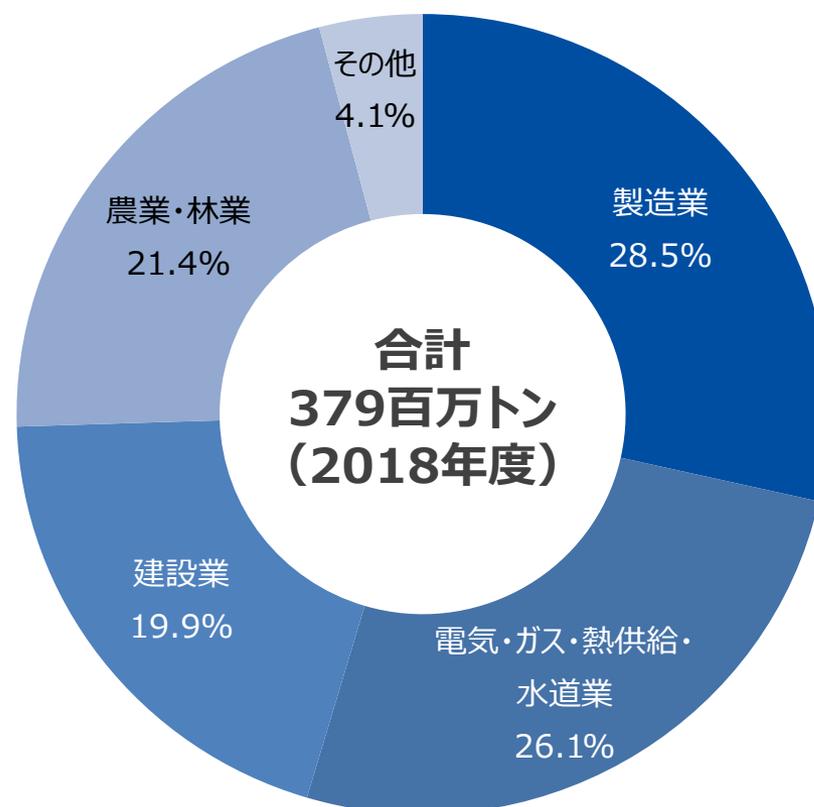
- 産業廃棄物の排出量を地域別で見ると、関東地区の排出量が最も多く、次いで北海道・東北、中部
- 業種別では、製造業の排出量が最も多く、次いで電気・ガス・熱供給・水道業、農業・林業、建設業

産業廃棄物の地域別排出割合



出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成30年度実績）」

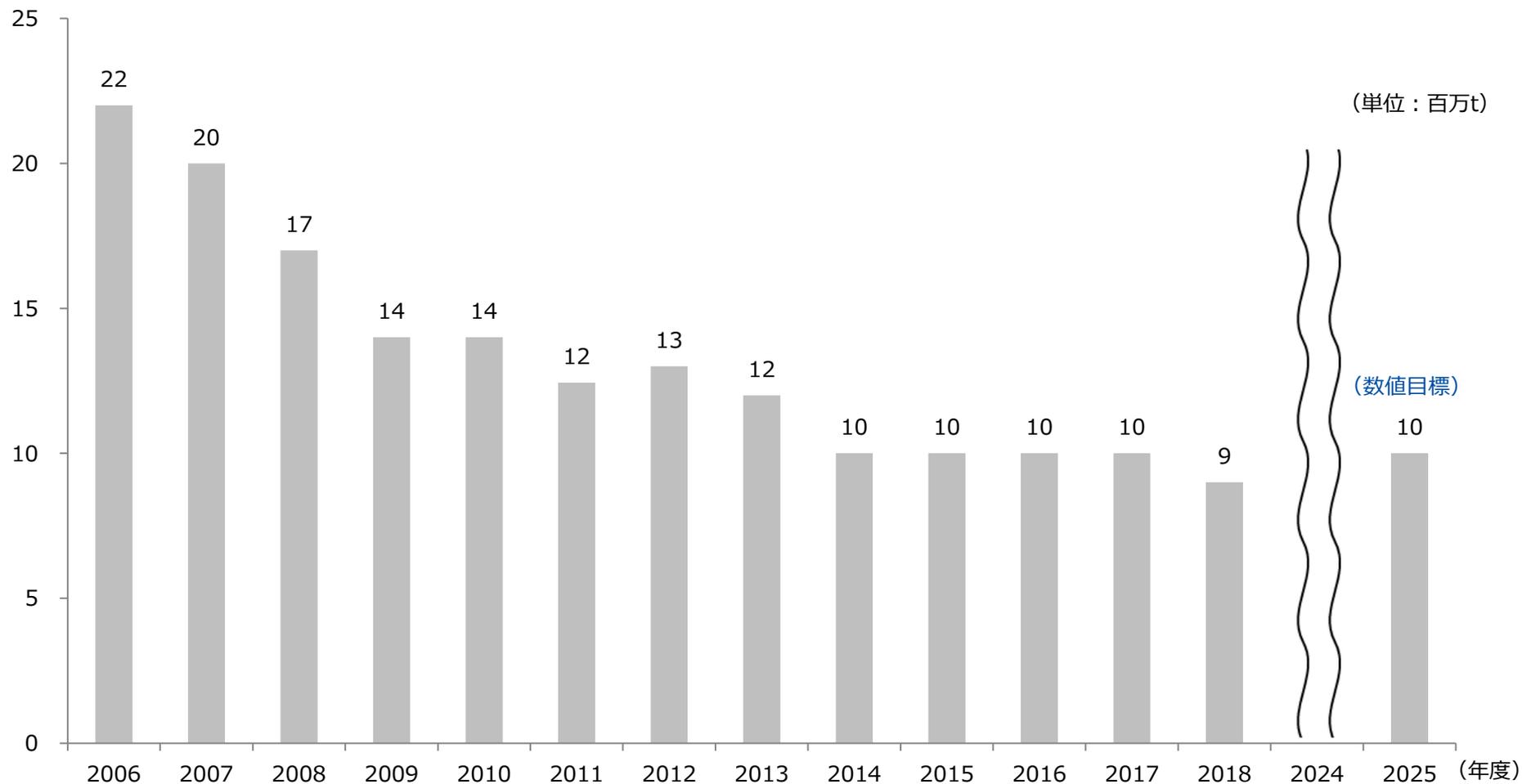
産業廃棄物の業種別排出割合



出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成30年度実績）」

## ⑤-7 業界環境（最終処分量の推移）

- 循環型社会形成推進基本計画では2025年度最終処分量の数値目標を約10百万トンと設定
- 最終処分は今後も不可避免的に発生し、最終処分場は社会に必要不可欠な存在



出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成30年度実績）」、環境省「循環型社会形成推進基本計画（平成30年6月）」

- 社員と家族がいつまでも安心して働くことができるよう、より良い職場環境を確保

## プラチナくるみマークの認定取得

2015年8月に静岡県の企業では2番目（産業廃棄物処理業界では初）の**プラチナくるみマーク**を取得しました。



「プラチナくるみ認定制度」は、平成27年4月1日施行の改正次世代法により創設され、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定（くるみ認定）を受けた企業のうち、より高い水準の取組みを行った企業が認定を受けられる制度です。

## 週に3日のノー残業 <月・水・金>

ミダックでは週に3日のノー残業デーを実施しています。

## 年次有給休暇の個別指定方式

従来から有給休暇の計画付与を実施していましたが、社員の都合や希望に合わせた休みを取得できるよう個別指定方式を採用。

## ワークライフバランス企業の認定取得

2017年2月に**浜松市ワークライフバランス等推進事業所**を認定取得しました。



働きやすい職場環境づくりや女性活躍の推進を図るため、仕事と家庭（子育てや介護）、地域活動等との両立支援などのワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる事業所を認証する制度です。

## 育児・介護を支援

ミダックでは育児や介護による休業について、その一部を有給化することにより、育児・介護を支援しています。

## 女性従業員支援

ミダックでは働く女性を応援するセミナーや勉強会を定期的を実施することによって、女性従業員がより働き易くなるよう職場の環境づくりに積極的に取り組んでいます。

■ 地域社会との良好な関係を構築するため、また環境保全のため、当社グループは精力的に活動



## 花のリレー・プロジェクト【定期】

『天浜線 人と時代をつなぐ花のリレー・プロジェクト』気賀駅の植栽地の除草作業を行っています。気賀駅に植栽された花壇や周辺の定期的な清掃や美化活動に取り組んでいます。



## 五島海岸清掃活動【1月】

私たちの海を守るために、当社は、「6 R 県民運動」に賛同しています。その運動の一環として、2021年1月に、浜松五島海岸にて清掃活動を行いました。

## 児童養護施設へ政府支給布マスクを寄付【7月】

マスク不足で困っている児童養護施設の子供達に届けることを目的とし、政府支給の布マスクについて、5月29日から6月末までの期間で、従業員等から330枚のマスクが集まり、児童養護施設「和光寮」に寄贈しました。



## 環境教育【3月】

浜松市環境部と共同で、浜松市内の小学校4校で移動式循環リサイクルカーを用いた環境授業を実施しました。



## 環境教育【9月】

毎年秋ごろに有玉小学校（浜松市）を訪問し、ゴミに関する知識や分別・減量の大切さを楽しく学べるよう環境授業を行っています。

※新型コロナウイルス感染症に配慮し、  
2020年度は環境教育DVDを寄贈。



## ミダック祭【9月】

毎年9月に地域住民の皆さんや従業員とその家族などを招いてミダック祭を開催しています。※新型コロナウイルス感染症に配慮し、2020年度は中止。



## こども食堂支援【10月】

ミダック祭のブースでこども食堂用の食料品を受入。食事支援とフードロスの両面で社会貢献をしました。



- 本資料は、情報提供を目的としたものであり、当社株式等の特定の商品についての募集・投資勧誘・営業等を目的としたものではありません
- 本資料に記載されている見解・見通し・予測等は、資料作成時点での当社の判断です。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください
- 本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご了承ください
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません



水・大地・空気を未来につなぐ

## 経営理念

ミダックは、水と大地と空気そして人、すべてが共に栄えるかけがえのない地球を次の世代に美しく渡すために、その前線を担う環境創造集団としての社会的責任を自覚して、地球にやさしい廃棄物処理を追求してまいります。

株式会社ミダック